

それぞれが持つ多様な特性に応じた「生きる力」と「働く力」の体得

特定非営利活動法人ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク

理事長 猪子 和幸氏①

猪子 和幸



○プロフィール

- ・特定非営利活動法人ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク 理事長
(略歴)
- ・1962年、高等学校（商業科）教員。徳島県情報処理教育センター創立から以後14年間教育情報処理システムに携わる。
- ・現場復帰後は高等学校へのインターネット環境の導入・整備と学習活動での有効利用を実践的に研究。
- ・1999年定年退職後、障害者・高齢者など「社会生活・職業生活弱者」の自立をICT利活用技術の指導と在宅就業の創出で支援することを目的として「ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク」を創設。

ICT利活用で変わる社会の姿

<課題>

- ・高齢者人口は3500万人に達するとの推計もあり、これまで高齢化進展の「速さ」が問題であったが、これからは高齢化率の「高さ」が問題となる。
- ・「いかに生きるか」から「いかに死ねるか」が個々人の重要な関心事となってくる。

<提言>

- ・社会生活・職業生活で弱者の立場を強いられている人たちの社会参加と経済的自立を実現する。
- ・ICT利活用により、それぞれが持つ多様な特性に応じた「生きる力」と「働く力」を体得することで、時間と場所の制約から解放された新しいワーキングスタイルとライフスタイルを創出する。

<実現のために必要なこと>

- ・2025年までを視野に入れた成長に貢献するイノベーションの創造のための長期的戦略指針「イノベーション25」に描かれた「明るい未来」を私たち一人ひとりが自らに問うことから始めたい。

（参考：内閣府イノベーション25）

<http://www.cao.go.jp/innovation/index.html>

ICT進歩・技術革新が「優しさ」を目指して行われる社会に

特定非営利活動法人ジェイシーアイ・テレワークーズ・ネットワーク

理事長 猪子 和幸氏②

ICT利活用キーワード

- ・ ICT利活用により、時間と場所の制約から解放された新しいワーキングスタイルとライフスタイルを創出できる。
- ・ 「障害」は障害者を取り巻く社会環境がつくりだすものであり、社会的資源とシステムを障害者が自由に利用できる状況を実現すれば、「障害者」と「健常者」の仕切りも敷居もなくなる。
- ・ 仕事を障害者に合わせるのではなく、「障害者だからこそできる仕事」、「障害者でなければできない仕事」を精選する。
- ・ 逆転の発想で移動ができない者だからこそ、「職場へ出向かなくても良い、自宅が職場」だと考える。
- ・ 「共同受注」で機会損失を回避し、各団体の共存共栄が期待できる。同業者でつぶし合わない。

佐賀県の評価と今後の未来について

<佐賀県の評価>

- ・ 「全国最先端のICT利活用県」として、とくにテレワークを日常化したことで、自然災害などでの事業継続や成果が出ていることは思わず快哉を叫んだ。
- ・ 民間では当たり前のことが行政では当たり前でない現実を打破するために、佐賀県のような強力な先達者の存在はとても大きい。

<佐賀県の改善点>

- ・ 改革のカギを握る「人材」や「適任者」を見つけたり育てることが難しい。

<今後の未来>

- ・ 技術革新が日進月歩以上で進んでおり予測はできないがこんな未来であってくれたなら嬉しい。
 - (1) 「テレワーク」がすべての人たちの一般的な就業形態として行われる社会
 - (2) ICT進歩・技術革新が「優しさ」を目指して行われる社会
 - (3) 「命」の大切さがすべての価値判断の基準になる社会